

## 第四回 丸山眞男研究プロジェクト公開研究会概要

日時 二〇一六年二月一九日（金）一五時三〇分～一七時

場所 東京女子大学二四二〇二教室

報告者 宮村治雄氏

（成蹊大学アジア太平洋研究センター客員研究員）

論 題 中江兆民『三酔人経綸問答』再読

—「理学」と「経綸」の間で—

概 要

『三酔人経綸問答』は、中江兆民の「主著」とされ、論じられることも多い。しかし、そのテキストが成り立つ主体的な文脈に沿って解読されることは、必ずしも十分に果たされているとはいえないように思われる。

兆民は、この作品に先だって、彼の「経綸」の基礎を形造るルソーの『社会契約論』や『学問芸術論』の翻訳だけでなく、フランス革命史の叙述や、ルソー批判の紹介などをも試みていたし、彼が「理学」と呼ぶに関連する翻訳や著作を行っていた。それらの著訳書、および彼が主宰した仏学塾での塾生たちと共同して刊行した『政理叢談』雑誌その他の著訳書は、同時代日本での彼の特異な知的視野と位置とを

示している。

兆民の「主著」は、そうしたサブテキスト群の広がりとお興行きの中に置き直されるとき、どのような姿を開示するのか。できるだけ、新たな諸側面に即して素描した。

なお、当日は以下のような報告を行った。

はじめに

一 兆民における「経綸」と「理学」の間——その生涯に二つの軸としての

◎「理学」の未完成の自覚

二 「経綸」から「理学」へ——出発点としての『民約訳解』

◎「人倫」の普遍性と「政治」の相対性

◎「政治原理」としての「民約」の定位

◎「政治的判断の相対性」——「技術」としての『社会契約論』

◎『民約訳解』以降の「宿題」——『三酔人経綸問答』の課題

三 「理学」から「経綸」へ——「問答」の前提

(1) 孟子と「豪傑」

(2) プラトンと「問答」

◎ 「豪傑」像の分岐

四 『三酔人経綸問答』と「進化論」

(1) スペンサー思想との出会い

◎ 二人の媒介者——馬場辰猪と A. Fouillee

(2) 『三酔人経綸問答』は、なぜ「問答」でなければならなかったか？

(3) 兆民に於ける「ルソー・スペンサー問題」

#### 第4回 公開研究会

# 中江兆民『三酔人経綸問答』再読

——「理学」と「経綸」の間で——

講師： 宮村 治雄氏

(成蹊大学アジア太平洋研究センター客員研究員)

日時：2016年2月19日(金)

15:30～17:00

会場：東京女子大学 24202 教室

## 第2部 丸山眞男文庫の現在

——バーチャル書庫と草稿類デジタルアーカイブの紹介——

※講演会終了後の30分程度を予定しております。

---

---

申 込 不 要 ・ 入 場 無 料

---

---

問合せ先：東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター

〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1

Tel: 03-5382-6817 Fax: 03-5382-6120

E-mail: marubun@lab.twcu.ac.jp

HP: <http://www.twcu.ac.jp/facilities/maruyama>

## 講演の概要

『三酔人経綸問答』は、中江兆民の「主著」とされ、論じられることも多い。しかし、そのテキストが成り立つ主体的な文脈に沿って解説されることは、必ずしも十分に果たされてきているとはいえないように思われる。

兆民は、この作品に先だって、彼の「経綸」の基礎を形造るルソーの『社会契約論』や『学問芸術論』の翻訳だけでなく、フランス革命史の叙述や、ルソー批判の紹介などをも試みていたし、彼が「理学」と呼ぶ〈philosophie〉に関連する翻訳や著作を行っていた。それらの著訳書、および彼が主宰した仏学塾での塾生たちと共同して刊行した『政理叢談』雑誌その他の著訳書は、同時代日本での彼の特異な知的視野と位置とを示している。

兆民の「主著」は、そうしたサブテキスト群の広がりや奥行きの中に置き直されるとき、どのような姿を開示するのか。できるだけ、新たな諸側面に即して素描してみたい。

## 講師プロフィール

成蹊大学アジア太平洋研究センター客員研究員。著書に、『戦後精神の政治学——丸山眞男・藤田省三・萩原延壽』（岩波書店、2009年）、『新訂日本政治思想史——「自由」の観念を軸にして』（放送大学教育振興会、2005年）、『開国経験の思想史——兆民と時代精神』（東京大学出版会、1996年）、『理学者兆民——ある開国経験の思想史』（みすず書房、1989年）など。

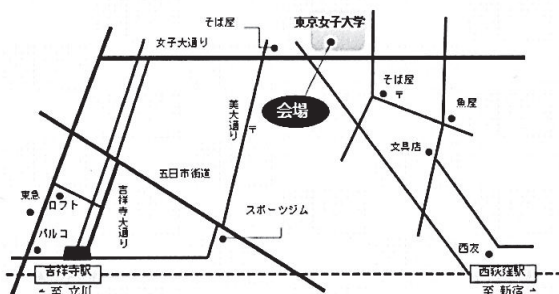
## 第2部 丸山眞男文庫の現在

東京女子大学は、2012年度より、丸山眞男文庫の資料にもとづいた研究プロジェクト「20世紀日本における知識人と教養——丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用——」を開始しました（文部科学省平成24年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」採択プロジェクト）。このプロジェクトは5年間にわたって2つのテーマを軸として研究を進めています。

この第2部では、テーマの1つ「丸山眞男文庫所蔵資料の調査研究とデジタルアーカイブ構築」の成果にあたる、バーチャル書庫（2015年3月公開）と草稿類デジタルアーカイブ（同年6月公開）について当文庫スタッフがご紹介いたします（HP：<http://www.twcu.ac.jp/facilities/maruyama/project/>）。

### 東京女子大学へのアクセス

JR西荻窪駅北口より徒歩約12分。  
バスの場合は西荻窪駅北口より吉祥寺駅行きバス／JR・京王井の頭線吉祥寺駅より西荻窪駅行バスで「東京女子大前」下車。



### 丸山眞男文庫とは

日本政治思想史の研究を中心に、政治思想家として世界に向けて発信し続けた丸山眞男は、戦後の日本を代表する知識人でありましたが、その思索の跡を伝える約2万冊の蔵書と約3万頁の草稿類が1998年に東京女子大学に寄贈されました。東京女子大学は、日本における丸山眞男研究の拠点となり、貴重な資料がひろく活用されることを願って丸山眞男文庫を設立し、調査と整理を進めるとともに講演会、公開研究会、公開授業等を開催しています。